

圧巻だった3人の特別講演

令和元年5月9日、メイン会場となった県立音楽堂にパイプオルガンの音が鳴り響いた。「オペラ座の怪人」の曲に迎えられ金子周一会長が高らかに開会を宣言、第105回日本消化器病学会総会の幕が開いた。

金子 ◆今回は10連休明けにも関わらず、皆さんの出足は好調で3日間で全国から5000人を超える参加者が集まりました。好天にも恵まれ、大きな問題もなく大会を終えることができたこと

に、まずはすべての関係者の皆様に御礼と感謝を申し上げます。

す。今学会で、新しい医療を創生することは医療者としての私たちの使命であるとの思いから「医療の創生、そして世界へ」のテーマを掲げました。参加者の皆様からそれなりの手応えを感じ取ることができました。何より、世界で活躍する3人の方の「特別講演」が素晴らしかった。

医療創生、そして世界へ。



第105回 日本消化器病学会総会 会長報告

そのメッセージを加速させたい。

Kaneko Shuichi

日本消化器病学会総会 会長

金子 周一

金沢大学医薬保健研究域医学系 教授

令和初の全国学会で、10連休後の5月9日から3日間、金沢市の県立音楽堂をメイン会場に行われた「第105回日本消化器病学会総会」が、大盛況のうちに終了した。5,000人を超える参加者が金沢に集結、会長を務めた金沢大学の金子周一教授に総括していただいた。



国日本の挑戦と機会」と題し、日本人が世界に飛び出すことの意義を強調した。

特別講演の一人は、初日の5月9日に登壇したアメリカS&R財団の久能祐子氏で「インベンションとイノベーション」というテーマで、日本人が世界で活躍する意義と重要性を訴えた。2日目にはマネックスグループCEOの松本大氏が「世界における日本経済と、金融における新技術」について講演した。3人目は、元WHO（世界保健機構）の感染症対策部門を牽引した中谷比呂樹氏で「グローバルヘルス…課題先進

金子 ◆初日の久能さんは、日本で点眼液の開発、商品化に成功し、その後アメリカでも新薬の開発という大成功を収めた人。「日本人が医療を創生して、世界へ羽ばたく」重要性を強くアピールされました。特に若い人は、新しいことをするためにジャンプしなくてはならない。飛び越えることは決して怖くないから挑戦しましょう、と。「私は（世界の）70億人のために仕事をしている」として



世界中の人のために、日本人がもっと頑張って欲しいと訴える圧倒的な内容でした。

松本さんも素晴らしかった。産業革命の前後の世界の覇権から、今日のインターネット、AI、ロボット、ブロックチェーンやビットコインにまで言及。世界の金融で中国は少し前まで遅れた国だったのが、いまや世界のトップに立っている。それを引き合いに、今後は最新技術を使ってノウハウをつくったところが世界の覇権を握ると、会場を引き込んでいました。3人目の中谷さんは、非常に刺激的でした。世界の3大投資家の一人、ジム・ロジャーズの言葉を使って「私が若かったら、日本を離れてすぐに外国に行くだろう」。今のままでは日本はダ



メになる。日本の若い人たちはもっと世界に飛び出して、世界貢献してください。3人とも圧巻の内容で、講演終了後には「良かった」というメールをたくさんいただきました。



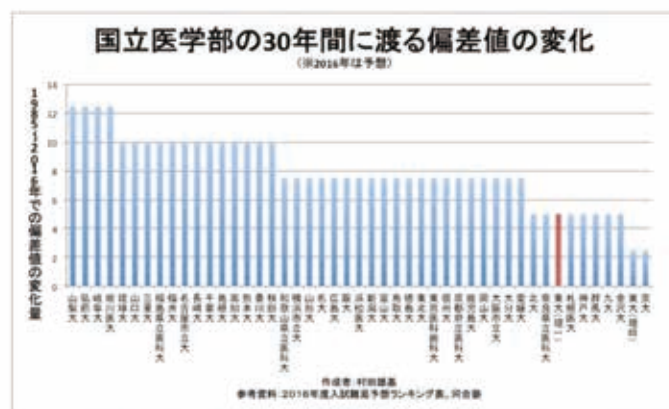
マネックスグループ株式会社代表執行役社長CEO 松本 大 氏

学会2日目の5月10日には石川県立音楽堂で、金子周一教授の「会長講演」が行われた。金子会長は「教授になつてまもない頃、中東・ヨルダンの首都アンマンを訪れた際、現地の貧困な市民生活と、富裕層だけに恵まれた医療とのギャップに衝撃を受けた」とを引き合いに、日本の学会で最新の医療を学ぶ重要性を認めつつも、「新しい医学や医療をつくることに貢献していかないと、いつか日本もヨルダンと同じ状況に陥つてしまいかねない」と警鐘を鳴らす。今学会で掲げた「医療創生、そして世界へ」のテーマはど

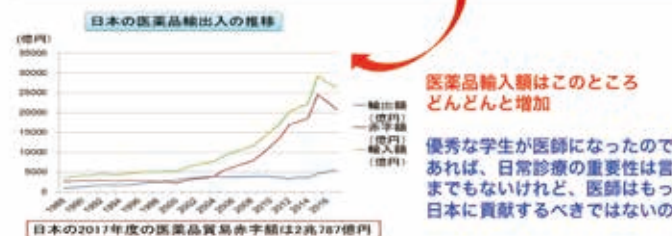
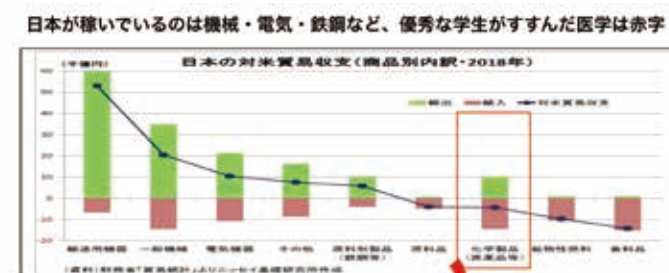
う受け止められたのか？

金子 ◆「わかる人にはわかる。わからない人にも、ちょっとひつかかる」私はそう感じています。会長講演で私が特に強調したデータが2つあります。一つは、2016年にまとめられた「過去30年で医学部の偏差値がどれだけ上がったか」を示すデータです。医学部はこの30年で2から12も偏差値が軒並み上がっています。これは裏を返せば、理系の優秀な人たちが理学部や工学部には行かず、医学部に進んだことを示しています。

もう一つは、2018年の対米貿易収支を示すデータです。日本の機械や電気、鉄鋼は黒字ですが、私たちが関係する医薬品は赤字。この30年の間に、医学



この30年間で医学部の偏差値は東大、京大も合わせて2-12も上昇
優秀な理系の学生の多くが医師をめざした



系に進んだ優秀な人たちは医薬品を作つて外国に売るところか、外国の物をたくさん使つて日本の貿易に貢献できていない。貿易収支でみると、さらにここ10年ぐらいどんどん赤字が増えています。

医学部に進んだ優秀な人たちが本来、機械や電気、鉄鋼の分野に進んでいれば、もっと稼いで日本を豊かにしていたかもしれない。医師になったのはいいけど外国の薬や外国の指針、日々の診療につながる情報を得ることばかりを優先

して、新しいもののづくりで日本を豊かにすることをしていないのではないのか。奇しくもそれは、私がヨルダンのアンマンを訪れた時に感じたことと同じ現象につながっていくのではないか。それをなんとかするためには、日本の医師は医療を創出し、世界へ発信していかなくてはいい。それが本来の学会の使命のひとつではないかと訴えました。

医薬品輸入額はここと
どんどん増加

優秀な学生が医師になったのであれば、日常診療の重要性は言うまでもないけれど、医師はもっと日本に貢献するべきではないのか

学会を機に、医療創生を加速

北陸新幹線が開業して5年が経過、金沢はインバウンド（訪日外国人旅行）効果もあつて数多くの人が訪れる。初日のオーケストラアンサンブル金沢による演奏や鏡割り、2日目の素囃子、ランチオンセミナーに出された昼食弁当にも、金沢らしさが添えられた。さらに、3種類のデザインの施された特製の学会バッグ、記念品にも伝統工芸が根づく金沢らしい工夫が施され、参加者の人気を集めた。

思います。今学会を機に、今後、医療創生の動きがますます加速されることを期待しています。お忙しい中、参加いただきました皆様、関係者の皆様に改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。



金子 ◆学会なので明日の診断や治療に役立つ情報を持ち帰っていただくことも重要で、シンポジウム、ワークショップ、パネルディスカッションもたくさん行われました。国際シンポジウムでは世界の消化器がんを救っている人たちが発表してくださり、とても聞き応えがありました。今、がん治療と潰瘍性大腸炎、クローン病の治療が著しく進んでいることがわかりました。特別講演、招請講演含めて医療創生、世界に飛び出そうという心は少しは伝わったのではないかと



金子 周一（かねこ・しゅういち）
金沢大学医薬保健研究域医学系 教授
世界保健機構（WHO）コラボレーティングセンター長

